

2026.08.31

作成：鹿児島県立短期大学 田野耕平

明和未来学校プロジェクトー 学校を歩いて、未来を見つけよう ― 児童・生徒ワークショップ実施報告

1. ワークショップの概要

日時 : 2026 年 8 月 21 日 (金) 13:30～15:30
場所 : 明和校区公民館
参加者 : 明和中学校 生徒会生徒 (3 年生) 5 名、 明和小学校 児童会生徒 (6 年生) 7 人、
ファシリテーター : 鹿児島県立短期大学教員 田野耕平、鹿児島県立短期大学生活科学科学生 7 名
関係者 : 株式会社 武田建築事務所 3 名、鹿児島市教育委員会 2 名

1-1. 目的

明和地区義務教育学校の整備に向け、現在の学校生活や学校環境について児童・生徒自身の視点から意見を把握するとともに、日常の活動や思い出、場所への愛着等を手がかりとして、これからの学校に求められる空間や過ごし方について考えることを目的として実施した。

1-2. 実施方法

小学生チームと中学生チームに分かれ、それぞれ短期大学生がファシリテーターとして参加した。

参加者は、短期大学生とともに校内を歩きながら、

「好きな場所 / 思い出の場所 / よく使う場所 / もっとよくしたい場所」

などを探し、写真を撮影した。

その後、撮影した写真を PC 画面に表示し、写真を選んだ理由やその場所で行われる活動について話し合いながら、写真のタイトルと説明を作成した。

最後に、各チームで撮影・整理した写真をモニターに映し、参加者全員で共有した。



2. 撮影された場所の概要

今回、児童・生徒から提出された写真は24件であった。

撮影場所を施設・場所の種類から整理すると、以下のような傾向が見られた。

分類	主な撮影場所	傾向
屋外・運動空間	校庭、プール、テニスコート、弓道場	運動・遊び・行事など多様な活動
学習・活動空間	教室、音楽室、図書室、多目的室	授業だけでなく遊びや交流にも利用
交流・集団活動	生徒会室、議場、体育館	話し合い、集会、共同作業等
移動・中間領域	渡り廊下	移動だけでなく会話・休憩の場
生活・支援空間	保健室、更衣室、放送室	休憩、着替え、情報発信等
自然環境	明和の森	遊び、自然とのふれあい

特に、校庭・体育館・渡り廊下など、特定の用途に限定されない空間が多く選ばれていることが特徴的であった。

3. 学校で行われている活動

写真に添えられた説明から、児童・生徒が学校内で行っている活動を整理すると、以下のような活動が確認できた。

3-1. 運動・遊び

ソフトテニス、弓道、水泳、ドッジボール、バスケットボール、バレーボール、鬼ごっこ、側転など、多様な身体活動が挙げられた。特に小学校の校庭については、「ドッジボール、バスケ、バレー、鬼ごっこ、行事、バルーンリリース」など、運動だけでなく行事を含む多様な活動が行われていることが示された。

3-2. 学習・創作

授業、自習、読書、合奏、楽器演奏などが挙げられた。中学校の図書室では「本を借りる、本を読む、自習する」といった複数の活動が行われている。

3-3. 交流・協働

話し合い、おしゃべり、専門部の仕事、共同作業など、他者と関わる活動も多く見られた。中学校の生徒会室では、「話し合い、各専門部ごとの仕事、おしゃべり、自習」が行われている。また、小学校の議場では話し合いに加えて「みんなで作業をする」場として利用されている。

3-4. 休憩・居場所

「休む」「落ち着く」「友達と話す」といった、必ずしも明確な目的を持たない過ごし方も確認された。例えば小学校の保健室は、「涼しい、休める、安心する」場所として評価されている。

4. 児童・生徒が感じている「場所の良さ」

写真に対するコメントからは、場所の機能だけでなく、その場所で感じる環境や感情が場所の評価に大きく関係していることが分かる。

主な内容は以下の通りである。

4-1. 広さ・自由度

「広い」「なんでもできる」「できることがたくさんある」といった意見が複数見られた。

4-2. 自然・景色・風

「景色が良い」「風が気持ちいい」「自然がたくさん」「植物がたくさんある」など、自然環境に関する評価も確認された。中学校の渡り廊下については、「景色が良くて癒される、風が気持ちいい、広いので話したり、休憩がしやすい」と評価されている。

4-3. 快適性・安心感

「涼しい」「安心する」「休める」「水が冷たくて気持ちいい」など、身体的な快適さや心理的な安心感に関する意見が見られた。

4-4. 友人との関係

「友達と話せる」「みんなで集まれる」「秘密の話ができる」など、他者との関係を育むことが場所の価値として捉えられている。

4-5. 思い出・青春

「思い出が詰まっている」「青春を感じる」など、学校生活の記憶と場所が結びついている例も多く見られた。

5. 「もっとよくしたい場所」から見える課題

改善に関する意見には、以下のような傾向が見られた。

5-1. 暑さ・空調への対応

エアコン、クーラー、扇風機、屋根、日陰など、暑さへの対応を求める意見が多く見られた。また、プールについては小学校・中学校の双方から屋根や屋内化に関する意見が出ている。

5-2. 安全性・維持管理

渡り廊下の構造的な不安、テニスコートのフェンス、木の根による歩きにくさ、火山灰の侵入など、現在の施設を利用する上での具体的な課題が挙げられた。

5-3. 設備・収納

棚、黒板、ホワイトボード、モニター、楽器、水飲み場など、活動を支える設備への要望が見られた。

5-4. 活動に応じた空間の分化

単純に「広くしてほしい」という要望だけでなく、活動の違いに応じて空間を分けたいという意見も確認された。例えば中学校の図書室では、「読むスペースと自習スペースを分けてほしい」という意見があり、音楽室についても、「部活と授業で使う部屋を別々に」という意見が出ている。

6. ワークショップから得られた主な傾向

今回の結果から、特に以下の5点が特徴として挙げられる。

- ① 「教室」だけでなく、学校のさまざまな場所が大切にされている
校庭、体育館、渡り廊下、森、生徒会室など、一般的な「教室」以外の場所が多数選ばれた。
- ② 一つの場所に複数の活動が重なっている
例えば教室では「授業、遊ぶ、しゃべる」、校庭では運動・遊び・行事など、空間の多目的な使われ方が確認された。
- ③ 「移動する場所」も居場所になっている
渡り廊下のように、本来は移動のための空間が、会話・休憩・景色を楽しむ場所として評価されている。
- ④ 日常の場所と「思い出の場所」が重なっている
体育館、教室、校庭、部活動施設など、日常的に使う場所が同時に思い出の場所にもなっている。
- ⑤ 快適性と「人との関係」が場所の評価に大きく関わっている
「涼しい」「風が気持ちいい」といった環境的な要素と、「友達と話せる」「みんなで集まれる」といった社会的な要素の双方が、場所の魅力として語られている。

7. 基本計画への示唆

今回のワークショップでは、児童・生徒から単なる「〇〇室がほしい」という施設要望だけでなく、現在の学校でどのような活動が行われ、どのような場所が思い出や居場所になっているのかについて具体的な意見が得られた。

特に、

「活動 → 人との関わり → 感じ方・思い出 → 空間」

というつながりが見られたことは、今後の学校計画を考える上で重要である。

したがって、今回の意見は個別の施設・設備要望としてのみ捉えるのではなく、以下のような空間的テーマとして整理することができる。

- 多様な活動を受け止める、広がりのある空間
- 友人と集まり、話すことのできる居場所
- 一人で落ち着いて過ごせる場所
- 自然や風、景色を感じられる場所
- 移動しながら立ち止まれる中間領域
- 日常の活動が思い出として残る場所
- 活動に応じて使い分けられる柔軟な空間
- 暑さや火山灰等、鹿児島環境に対応した快適な空間

これらは、義務教育学校における9年間の学校生活を支える空間構成を検討する際の基礎的な視点として活用できる。

8. まとめ

今回のワークショップでは、児童・生徒が自分たちの学校を実際に歩き、日常的に使っている場所や思い出の場所、改善したい場所を写真として記録した。

その結果、児童・生徒にとって学校は、単に「授業を受けるための施設」ではなく、学ぶ、遊ぶ、運動する、話す、集まる、休む、自然と触れ合う、思い出をつくるといった多様な活動が重なり合う生活の場として捉えられていることが分かった。

また、場所の魅力はその機能だけではなく、「友達と話せる」「安心する」「風が気持ちいい」「青春を感じる」といった体験や感情と強く結びついている。

今後の基本計画では、こうした児童・生徒の具体的な学校生活を手がかりとして、**「どんな部屋をつくるか」だけでなく、「そこでどんな活動や体験が生まれる学校にするか」**という視点から空間を検討することが重要である。